

演題 『ロータリーの職業奉仕』

RI 研修リーダー
2000-01年度第2750地区ガバナー
川尻政輝氏



はじめに

●唯今、ご紹介いただきました東京世田谷RCの川尻政輝です。

2004-05年度のロータリー第2500地区の地区大会が、地区内外の多数のロータリアンが出席されて、「ロータリーを祝おう」、100周年記念大会として盛大に開催されますことに、心からお祝いを申しあげます。

●ところで、日本のロータリーも、今、いろいろの問題に直面しております。このようなときは、「私たちは、今、どうしてロータリアンを続けているのか」、「ロータリーにどんな魅力があるのか」、また「ロータリーは、私たちに何のメリットがあるのか」ということを考えながら、100年の過去を振り返ってみて、その間に改善され進化したいろいろのことを反省しながら、このことをこれからの100年ロータリーの発展に生かして行くことが必要であります。これがエステスRI会長のテーマの「ロータリーの100年を祝おう」という意味であります。

●本日のテーマの「ロータリーの職業奉仕」は、ロータリーを創立した大きな理由の一つであり、ロータリーの時代と場所と、その地域の文化や歴史(時空)を超えた、ロータリーの理念や原理を学ぶ最も重要な問題であります。

ロータリーの職業奉仕を理解することは、ロータリーの本質に触れ、ロータリーの良さ、ロータリーの素晴らしさを理解できます。しかし、これは大変に奥深く、学んでも学んでも、また努力しても努力しても、入学はあっても卒業のないロータリー人生学園であること

が理解できます。

●最近、この「ロータリーの職業奉仕」が、RIの理事会の決議や国際協議会のセッションで真剣に取り組まれるようになったことは、ロータリーの発展のために喜ばしいことです。その結果、日本の国レベルとパストガバナーレベルにおいては、この失われた奉仕部門・忘れられた奉仕部門ととまでいわれている「職業奉仕」が再検討され、また研究もされてきております。

しかし、日本国内においては、「職業奉仕」や「ロータリーの綱領」、「四つのテスト」、「ロータリアンの職業宣言」、「職業奉仕に関する声明」、ロータリーの公式標語の「超我の奉仕 (service above self)」と「最も奉仕するもの、最も多く報いられる (He profits most who serves best.)」、「会社奉仕に関する1923年の声明=決議=23-34」、などを、皆さんのクラブのレベルで、どの程度教育されているのか、極めて疑わしい現状ではないかと思えます。これらの「ロータリーの職業奉仕」に関連する原理を、クラブレベルで徹底して討議したり、研修しているクラブが、どれだけ日本国内にあるでしょうか。このようなクラブが、少なくなっているために、クラブレベルでロータリーを理解した人が少なくなっているのです。どうすればよいでしょうか。

ロータリークラブのレベルで、ロータリーの理念を教えないで、現状の会員の減少傾向に目を奪われて、会員増強やクラブ拡大だけを強調したり、それらからポリオ撲滅キャンペーンのような世界的規模の奉仕プロジェクトだけに取り組んできたRIの指導の結果が、今日のロータリーの危機を、招いてしまったのではなからうか、と私は心配しております。

・私は、この第2500地区の本年度の100周年を祝う地区

大会で、今、日本のロータリーが直面している、いくつかの問題のうち、大きな問題の一つである「ロータリーの職業奉仕」について、皆さんと一緒に考える機会を与えていただいたことを、牧野地区ガバナーを初め、この地区の先輩ロータリアンと、今日、ここに出席されておられる、多くのロータリアンの皆様に感謝申し上げます。

・ところで、ロータリーの職業奉仕を考える場合、私は総論と各論に分けて検討すべきだと思います。したがって総論から始めることにいたしますが、ロータリーの綱領、四つのテスト、式標語、職業宣言、職業奉仕の声明など、各論については時間に余裕があれば説明いたします。

第1. 「ロータリーの職業奉仕」の総論

●ロータリーの職業奉仕は、失われた奉仕部門とか、忘れられた奉仕部門とかいわれていますが、どうしてこのように言われるのでしょうか？

ロータリアンなら、良く「職業奉仕は、難しくてなかなか理解できない」ということを、どこへ行っても聞きます。しかし、職業奉仕は、私たちが自分の職業を通じて会社に貢献することです。したがって職業奉仕は、ロータリーを創立した大きな理由の一つであり、社会のために私たちの職業上の専門技術を活用する機会でもあります。

この点からも職業奉仕が理解できなければ、皆さんが、職業上の奉仕の機会を失うこととなります。結局、職業奉仕を理解していないことには、ロータリーを理解していないことにもなります。

①、ところで、皆さんは、職業奉仕という言葉は、日本語だと思っておりますか。

・手続要覧の第5章の標題は、「Vocational service」の日本語訳と書いてあります。そして手続要覧の本文には、「職業奉仕は、ロータリーの綱領において、次のような言葉によって強調されている」として、綱領の第2項がそのまま引用されております。

・また1986年に採択された「職業奉仕に関する声明」の冒頭には「職業奉仕とは、あらゆる職業に携わる中で、奉仕の理想を生かしていくことをロータリーが育成、支援する方法である」とも説明しています。

・ところが職業奉仕という言葉は、日常的な日本語になっていないのです。ロータリアンの、私たちだけで使われている専門用語になっているのころに、「職業奉仕」という言葉自体からくる難しさもあります。

②、まず、「職業奉仕」(Vocational service)という言葉は、日本の国語辞典(広辞苑p.1116、広辞林p.992)を見ても、どこにも出ていません。一職業案内、職業意識、職業教育、職業指導、職業補導という言葉は、皆さんが日常的に使っておられる日本語ですが、「職業奉仕」という言葉は、日本の国語辞典に出ていない「ロータリーの専門用語」であります。手続要覧だけに出てくる言葉であります。

③、それでは、ロータリーの職業とは、何でしょうか。私たちの「職業」は、神から与えられた天職といえるのでしょうか。

・マックス・ウェバーの著書「プロテスタンティズムの論理と資本主義の精神」で、職業のVocationは、calling=神の命名によって与えられたもの、すなわち天職である。それぞれの職業は天の命によって与えられ、その職業の実行によって「世のため人のため」に尽くすものであるそして他の職業の人も天職であるから、お互いに尊重しあわなければならない。またお互いに品位あるものにしなければならない。すなわち倫理的に優れたもの、人のつくった社会的規模範である法律よりも、上位の「人の道、道徳律、倫理観」にかなうものでなければならない。この実践が職業奉仕である。

・このようなプロテスタントの考えが、アメリカに迎えられて、人々の職業は神から与えられた天職であり、大企業の経営者も、中小企業の経営者の職業も、上下の関係はないと考えられている。職業は、神との関係が第1で、他人との関係が第2である。

・しかし、日本では、明治維新までは職業と身分が区別されていませんでした。本来、アメリカやヨーロッパでいう職業、神から与えられた職業でなくて、封建社会の身分として「土農工商」に分かれていた。この時代の職業は、生まれながらに決定されており、職業を選択することはできなかった。したがってアメリカやヨーロッパ人の職業観と日本人の職業観を比較しても、日本人の職業は、生まれながらの身分であって、神から与えられた天職だという考えにはなれないのです。

④、それでは、私たちに、職業選択の自由が認められた今、どう考えたらよいのでしょうか。

・ロータリーの職業奉仕における「職業とは何か」、「職業を実践することは、どうあるべきか」を自分に問いかけてみる必要がある。

日本では「職業」(Vocation)といえば、生計を立てる

ために日常従事する仕事、生計を立てるための務め、家業、生業のことを言います。

私たちが生計を立てるためには、職業で利益を求め、利潤を上げることも必要であります。したがって職業は、「打算」の世界の問題であります。私たちが生きるための所得・収入・利益を得るための手段が職業であって、職業は「報いられる(profits)」ことが、最初から期待されており、自分のためにするものであります。日本では、この点を無視することはできない。これがロータリーの創立当時の会員の相互扶助の意味である。

・ところが「奉仕」(service)とは、どういうことかといえば、仕えること、自己の利害を離れて、長上の者や公共のために尽くすこと。商人が、損を覚悟で客のために尽くすこと、サービスすることで、「世のため人のため」にすることです。奉仕は「愛」の世界の問題であり、すなわち自分以外の人のためにすることであるから、自己犠牲を伴う活動であります。

・したがって日本語においては、「職業と奉仕」という言葉は、エネルギーの方向性が全く正反対の言葉であり、相反する言葉である。相反する言葉でも、たとえば「大きい」という言葉と、「小さい」という言葉、または「多い」という言葉と、「少ない」という言葉が結合して、それぞれ「大小」(大きいのと小さいのと、大きいか小さいか)とか、「多少」(多いか少ないか、少し、いくらか)という言葉がありますが、これは日本語になっており、結合したそれらの言葉は、それなりの独自の意味を持つに至っています。

ところが職業奉仕は、「職業」と「奉仕」という、この相反する二つの言葉を結合して一つのロータリー用語にしているが、日本では職業奉仕の意味を複雑にしておき、皆さんに誤解される原因にもなっております。

●それでは、ロータリーの「奉仕」(service)は、どういう意味か。奉仕は、本来「世のため人のため」に貢献することであるから、自己犠牲を伴うものである。ロータリーでは、奉仕を3つの意味で使っております。

①、すなわち、職業奉仕は、職業に対する奉仕ではなくて、自分の職業を通じて社会に奉仕する意味であります。ロータリアン本人が、「奉仕」の結果について受益者になることである。その受益は、物質的なものだけでなく、精神的なもの(満足感、達成感、感動、信用、信頼)でもある(profits)。

②、社会奉仕と国際奉仕の「奉仕」は、ボランティア

(volunteer)に近い意味であり、その受益者は奉仕するロータリアン以外の人である。したがって、社会奉仕と国際奉仕という「奉仕」は、奉仕される受益者の自助独立を支援する意味である。

ロータリアンが「奉仕の心」を形成するところは、例会であり、または例会は「友情」を深める人生道場である。そして「奉仕を実践」するところは、職場であったり、地域社会であったり、世界社会である。

③、クラブ奉仕の「奉仕」は、ロータリアンがその構成員としてロータリークラブに奉仕することである。クラブの運営管理が円滑に進むように、このことを「奉仕」というのです。クラブ運営にロータリアンが協力することを「奉仕」というのは、ロータリーにおける「奉仕」の意味を複雑にしている。ロータリーの綱領では、第1項は、クラブ奉仕という言葉は使わないで「奉仕する機会として知り合いを広めること」(親睦)になっている。

このようにロータリーで使う「奉仕」は四大奉仕でも、それぞれに違いがあることを理解していただきたいと思えます。

●そこで、「自分のためにする職業」が、どうして「世のため人のためになる奉仕」と言えるのでしょうか。

職業に一生懸命になること、すなわち金を儲けることが、どうして同時に世のため人のための奉仕になるのでしょうか。

・六角形の雪印のマークが象徴する、雪印食品販売株の事件で、雪は天からの贈り物で洗浄の象徴です。北海道の林野を切り開き営々とその基盤を築いてきた先輩の尊い方針が、国民から信頼され、雪印製品は戦前から長く消費者に信頼され、愛用されてきましたが、その製品の衛生管理のずさんな事実が次々と明らかになり、リサイクル牛乳など誰が呑むものかと、消費者の信用と信頼を失い、会社は瞬間に倒産してしまった。

・デパートの特別展示会で、この宝石は300万円の本物であるが、本日は特別に本日限り50万円で購入するという詐欺まがいの販売の件。

・役所の請負工事にみる手抜き工事。関門トンネルのコンクリート落下事件。高速道の標示柱の落下事件など。儲けのため、売らんがためには、大の大人が、このように、ごまかし、うその広告をし、また手抜き工事をし、このような話があまりにも多いのが現在の日本の社会になってしまっている。

これは何が原因でしょうか。こういう世相で、私たちロータリアンは職業人として何をなし、どう生きるべきでしょうか。

・ロータリークラブが、企業及び職業人であるロータリアンの組織である限り、会員個人の事業の発展と安定、利益の向上を図ることが、ロータリー活動を維持し発展させるための前提でなければなりません。ロータリアンの私たちも、職業人であるから、日々の仕事に精魂こめて一生懸命になることは大切で、それによってロータリアンは、「心を高める修行」をし、それが「職業倫理を高揚する」こととなります。一つのこと打ち込んでいる人、自分の仕事に一生懸命に働き続ける人は、日々の仕事を通じて「心を高めるための修行」に努めており、厚みのある人格を形成しているのです。仕事を心から好きになり、一生懸命魂こめて働く、そこにロータリーの人作りの役割がある。ラテン語に、「仕事の完成よりも、仕事をする人の完成」が、ロータリアンの職業奉仕である。

・世間で発展する事業は、その根底に、お客や取引先や下請負業者や従業員の立場も十分に考慮したサービス (service) を大事にしております。

不正や不道徳や世間に受け入れられないような方法で、一獲千金の利益を夢見たり、会員間の相互利益だけを上げるような姑息な手段を使うことではなく、「自分の事業の永続性のある発展は、お客や取引先や下請負や従業員などの、自分の周りの人達の幸福を考慮しながら、適正な方法で経済的な利潤を確保することによって、初めて得られるものであります」(アーサー・フレデリック・シェルドン)。

これを、ロータリーは、職業の倫理化運動といっている。1943年R I 理事会も、ロータリアンが従うべき道徳的・論理的指針となる「四つのテスト」を採択した頃は、ロータリーが倫理化運動であるという意味がよく理解されていた。

したがってロータリーは、原則としてロータリアン個人の職業活動のことを「ロータリアンの職業奉仕」というのです。

R I 理事会は、1989年に倫理基準のより具体的な方針を提供するロータリアンの「職業宣言」を採択しました。

また、2002年11月のR I 理事会は、職業奉仕は、各ロータリアンの高い倫理基準に始まるものであることを再確認したうえ、各自の職業においてそれを改善し、「職業宣言」を全面に出すようロータリークラブに奨励し、新会員を選ぶ際には、ロータリー会員の資格基準として高い倫理基準を強化すべきであることをロータリークラブに再認識させる決議 (決議104号) をしている。

・それでは、ロータリアンの論理的行動の特徴は、どんなことか。

- ①誠実であること。
- ②高潔であること。
- ③尊厳があること。

企業は、儲けなくては存続できない。したがって企業の根底には儲けがあります。しかしロータリーはそれに拘らず、「企業の根底に奉仕の理想を置く」と言っている。ロータリーは、企業における儲けを否定しているのではない。

例を挙げると、ある商人が100円で仕入れた物を。それを10万円で販売したとすれば、その商人はぼろ儲けしている、そしてこの商人は大変幸せになります。ところがそれを買わされたお客さんは、限りなく不幸になります。ロータリーは、この種の儲けを儲けと言わない。これは暴利ある。

ロータリアンは、商人として、また企業経営者として適正・合理的な値段で商品を製造販売して幸せになる。お客も適性な値段でその商品を買って幸せになる。このようにロータリアンも、ロータリアンから商品を買ったお客も双方が幸せになる。その調和点がどこかにあるはずです。この調和を求めていくのがロータリアンの職業奉仕だと考えるのです。

決議23-34号 (1923年のセントルイスの国際大会の34号議案として採択された決議をいう) 第1項に「ロータリーとは、利己と利他との調和を目的とする人生の哲学である」と言っております。これはロータリーの綱領の本文にある「有益な事業の基礎に奉仕の理想を置く」、すなわち「ロータリアンの企業の根底に奉仕の理想を置く」という考えと、決議23-34号の「利己と利他との調和を目的とする人生の哲学」は同じ意味である。

日本では、「職業奉仕」を、「奉仕」を略して、単に「私たちの職業とは、何か、どうあるべきか」と置き換えて考えるほうが理解しやすいのです。職業を通じて社会に奉仕することは、私たちの職業に内蔵する倫理的な要素であるからです。

●ロータリークラブの「職業奉仕」は、社会奉仕と、どこが、どう違うのか。

職業奉仕とは「職業を通じて社会に奉仕すること」とよく言われているが、「社会に奉仕」するならば、「社会奉仕」ではないか、また、ロータリークラブに、どんな職業があるのか、という疑問もあります。この点も職業奉仕が理解しにくいところである。例えば、会社の「奨学金制度」や「中・高校生による職場体験」

の実体は職業奉仕か、社会奉仕か。

職業奉仕は、ロータリアンを生産性の高い職業人にするためのプログラムと、職業における倫理基準の高揚が含まれている。

第II.「ロータリーの職業奉仕」の各論

それでは、ロータリーの「職業奉仕」は、どこに、どのように規定されているか。

1、ロータリーの綱領 (目的) として、国際ロータリー一定款第4条と標準ロータリークラブ定款第4条の本文は「有益な事業の基礎として奉仕の理想を鼓吹し、これを育成する」という (1935)。

①、「奉仕の理想」とは、どういう意味か？ロータリーで「奉仕」とは、世のため人のためにすることで、「思いやりの心と他人のための手助けである」といわれている。そして思いやりの心は「奉仕の基盤」であり、他人のための手助けが「奉仕の実現・実践」である。この精神と行動が奉仕の二つの要素である。他人への思いやりの心と他人のための手助けは、ロータリーの「奉仕の理想」であるが、日本でもロータリーが創立される以前から儒教の教えとして日本人の心に深く根付いている。

例えば、家庭においては家訓があり、会社には社規とか社訓がある。また商人にも商道徳があった。

「理想」とは、現実の反対語である。理想が実現されると現実となる。理想は、どこまでも努力する目標であり、現実となれば理想は存在しなくなる。理想は私たちの努力目標である。「奉仕の理想」は、奉仕 (思いやりと心と他人のための手助け) することが、どこまでも努力する目標である。

②、ロータリーの綱領 (目的) の本文の「有益な事業の基礎として、奉仕の理想を鼓吹し、これを育成する」の解釈が難しいといわれているが、同文の日本語訳を次のように、「奉仕の理想を、有益な事業の基礎として鼓吹し、これを育成する」と置き換えると理解しやすくなります。

すなわち、ロータリーの目的は、日本の伝統文化の「祭り」のときのように太鼓を叩き、笛を吹くように「奉仕の理想」 (思いやりの心と他人のための手助け) を、職業の根底において家庭でも、職場でも、地域社会でも、世界社会でも強調し、普及し、大きく育てることである。

1951年のアトランティック・シティ大会においてR I 及び標準RC定款が改正されて、従来の4カ条の綱領が1カ条の本文と四つの附属項目となって現在と全く同じ綱領に変更され、今日に至っている。

「有益な事業」とは、アメリカ人の職業観からすれば、神に与えられた天職のことであり、当時マフィアと深いつながりを持っていた高利貸し、いかさま医者、武器商人、偽ブランド商人、悪徳弁護士、ポルノ業者、酒密売業者、飲み屋、売春業者などを世に有益でない職業と考えていた。

ところが団体奉仕としてのロータリークラブの職業奉仕は個人奉仕と違ってクラブの地域的限界をいつ脱すことはできないのである。また職業奉仕について当初誤解されていたことは、ロータリアンが職業人の地域の代表者であればロータリアンを職業以外の「性」によって差別したことであります。女性でも職業の代表者であれば女性であるということだけで入会を拒否することはロータリーの綱領 (目的) に反することである。

ところでロータリーの綱領の本文は抽象的で分かり難いので、それを補強するために補強原則 (綱領の構成要素) とも言うべきものを四つ例をあげて説明しております。

③、ロータリーの綱領 (目的) 第2項 (職業奉仕) が、本文の具体例を挙げております。

すなわち「事業及び専門職務の道徳的水準を高めること、あらゆる有用な業務は尊重されるべきである」という認識を深めること、そしてロータリアン各自が、業務を通じて社会に奉仕するために、その業務を貧居あらしめること。」

・「事業及び専門職務の道徳的水準を高めること」とは、どういう意味か。

20世紀は、職業人にとって集団で経済的な利潤追及を第一義とするBusinessであったが、21世紀は、個人的な「心の豊かさ」を求めるProfessionになるといわれています。

したがって事業及び専門職務の道徳的水準を高めることは、“職業に論理観を持って従事すること、良心を持って職務に励むこと”である。これは誰から見ても道徳的にも怪しまれることがないように、誠心誠意を持って良心的な仕事をするのである。この文章からして、ロータリーの目的は、自分の職業を通じての倫理化運動であるといえる。

・「あらゆる有用な業務は尊重されるべきである」とは、どういう意味か。

職業には貴賤の別、そして上下の関係もない。どんな職業でも尊重されなければならない。すなわち職業上上下下の差はありません。大企業の経営者も中小企業の経営者も同じくそれぞれの職業が天職であり、どのような職種の経営者も、お互いに平等対等な天職 (calling) を持っている。ロータリアンは自分の職業が平等対等

な天職であることの誇りを持って自覚を深めるべきことである。

・「その業務を通じて社会に奉仕せよ」とは、どういう意味か。

自分が従事している職業は、自分だけで成り立っているものではない、社会がそれぞれを必要としているから成り立っているものである。、社会がそれを必要としているから成り立っているのであって、自分がやっているというよりも、社会にやらせてもらっているのだと考えるべきである。したがって誠心誠意を持って従事しなければならない。自分だけ良ければよいとか、また自分の会社だけが利益になれば良いと考えないで「足りるを知る」ということである。

すなわち、自分の今の生き方に満足してこれ以上の高望みをせず、これで十分だと満足する気持ちを持つことである。

・「その職業を品位あらしめること」とは、どういう意味か。

職業の品位とは、品格とか気品のことである。職業人は「自分の職業を天職と心得て、その誇りを持って、職業の発展と育成の義務がある」ことを自覚すべきである。

すなわち、いつも互いに相手の立場を尊重し感謝すること、職業は自分のためだけでなく、会社に奉仕するものであるから、自分の職業は品位あるものにならなければならない。

2、四つのテスト (the 4-way test) - 人生の方針

1940年以来、多くのロータリアンが、自分の職業、地域、個人レベルにおける言行 (think, say or do) の尺度として、四つのテストを使用している。これは職業奉仕にふさわしい言葉と認められてるが、問いかけるだけで、答えはロータリアン一人ひとりが出すものである。

四つのテスト

言行は、これに照らしてから

- ①、真実かどうか
- ②、みんなに公平か
- ③、好意と友情を深めるか
- ④、みんなのためになるかどうか

The 4-way test

Of the things we think, say or do

- ①、Is it the truth?
- ②、Is it fair to all concerned?
- ③、Will it build goodwill and better friendships?

④、will it be beneficial to all concerned?

・真実かどうか—これは「嘘偽りはないか」、「本当のことか」という意味であり、自分に問いかけている。

・みんなに公平か—これは関係するすべての人に公平かどうかということである。ロータリアンの仲間だからとか、特別の関係にある人だからとか、他のことで便宜をはかってもらった人だからとか言って特別に便宜をはかってはならないことをいう。

・好意と友情を深めるか—「取引に愛を込めて」という意味は、このことである。取引で関係者間に信用と信頼ができ、好意と友情が生まれると素晴らしいことである。

・みんなのためになるかどうか—職業論理の目標は、みんなのためになることである。その取引に関係した人たちすべてが等しく幸せになることから始まり、それが社会全体のためになるということに繋がるのである。世界中のロータリアンがこれを用い、また他の人たちとこれを分かち合ってきました。教育者、学生、同業者にも、この四つのテストが数多く配布されてきました。

四つのテストは、いかなる意味において「規則」として取り扱われてはなりません。また、規範でも、教義でもなく、自己評価を促すものである。契約でもなく、自分を高める飛躍台である。職業上どのような慣行が許されうるものか、文化によって異なりますが、四つのテストの精神は、あらゆる文化に属する人々の簡単で、実際的な方針となるものである。四つのテストについて教会でも説教されたことはあるが、説教でもありません。四つのテストは、主として職業奉仕プログラムにおいて、力を発揮するが、四大奉仕部門のすべてにおいて、なくてはならないものと考えている。

4、また、He profits most who serves best (最も良く奉仕するもの、最も多く報いられる) ほど、職業奉仕を良く表現した言葉は見当たらないといわれています。したがって、profitsは精神的なものだけでなく、物質的なものも含まれている。私は、このことを「積善去欲」の趣旨に理解しております。

1919年、第一次世界大戦終了後、新しいロータリー・クラブが世界中で拡大され、1921年、初めてアメリカ以外のイギリスのエジンバラでロータリー年次大会が開催されましたが、その年次大会でフレデリック・シェルドンが発表した「ロータリー哲学」の講演は、ロータリーの理念を哲学的に解釈したものであり、ヨーロッパのロータリアンに大きな感動を与えたといわれている。

そのときフランク・コリンズのservice, not self (自己の犠牲の下に他人に奉仕する) があまりにも宗教的な要素が強いため正式に廃止され、これに代わってservice above self (超我の奉仕) が新しいロータリー・モットーとして採択され、これがHe profits most who serves bestと共に1950年デトロイト大会で「決議50-51」によって使われることになった。すなわち、service above self (超我の奉仕) は、自己の存在と奉仕活動を同次元においた考え方である。一杯のご飯は自分だけが食べないで他人にも分けて食べることである。したがってservice above selfは、自己の繁栄と自分の周辺のすべての人の繁栄とが共存するHe profits most who serves bestと相通ずる理念でもあります。

ところが2001年の規定審議会で、この第二の公式標語「最もよく奉仕するもの。最も多く報いられる」の使用をすべてのロータリー用語から性に関する表現を削除することをR I 理事会に要請する件を採択し、この採択に基づいてR I 理事会は2001年6月の理事会でその使用を停止することを決議しました。ところが2001年11月のR I 理事会は、日本の強い要請で第二の公式標語を復活させたのです。

5、ロータリアンの職業宣言 (1989年) (Declaration For Rotarians in Business and Professions)

1988年シンガポールの規定審議会で次のロータリアンの「職業宣言」が決議された。

事業または専門職務に携わるロータリアンとして、私は以下の要請に応えんとするものである。

- ①、職業は奉仕の一つの機会なりと心に銘せよ。
- ②、職業の倫理模範、国の法律、地域社会の道德基準に対し、名実ともに忠実であれ。
- ③、職業の品位を保ち、自ら選んだ職業において、最高度の倫理的基準を推進すべく全力を尽くせ。
- ④、雇主、従業員、同僚、同業者、顧客、公衆、その他事業または専門職務上関係を持つすべての人々に対し、等しく公正なるべし。
- ⑤、社会に有能なすべての業務に対し、当然それに伴う名誉と敬意を表すべきことを知れ。
- ⑥、自己の職業上の手腕を捧げて、青少年に機会を開き、他人からの格別の要請にも応え、地域社会の生活の質を高めよ。
- ⑦、広告に際し、また自己の事業または専門職務に関して、これを余りに問うに当っては、正直専一なるべし。
- ⑧、事業または専門職務上の関係において、普通には得られない便宜ないし特典を、同僚ロータリアンに求めず、また与えうることなかれ。

この職業宣言は、ロータリーの綱領、倫理宣言、道

徳訓などの一連のロータリーの思想の流れを強調し確認するものである。ロータリーの綱領の「ロータリーの目的」についてさらに具体的にその実践の細目をあけて、改めてロータリーの倫理化の推進の目的を明確にしているのです。その中でも第2項は、国法を越えた「人倫の道とか道德」という高い倫理基準に名実ともに忠実であるべきことを厳しく教え、第3項には「職業の品位を高め」となり、また「天職」という思想を内に秘めて、「自ら選んだ職なのだからその職業に最高の倫理基準を推進せよ」と厳しく自らに命じている。第7項では、誇大広告の禁止と第8項にロータリアンへの特典贈与を戒めている。

6、職業奉仕に関する声明 (Statement on Vocational Service)

1987-88年度R I 理事会は、次の職業奉仕に関する声明を採択しました。

職業奉仕とは、あらゆる職業に携わる中で、奉仕の理想を生かしていくことはロータリーが育成、支援する方法である。職業奉仕の理想に本来込められているものは、次のものである。

- ①、あらゆる職業においても最も高度の道德水準を守り、推進すること。その中には、雇い主、従業員、同僚への誠実、忠実さ、またこの人たちや同業者、一般の人々、職業上の知己すべてへの公正な取り扱いも含まれる。
- ②、自己の職業またはロータリアンの携わる職業のみならず、あらゆる有能な職業の社会に対する価値を認めること。
- ③、自己の職業上の手腕を社会の問題やニーズに役立てること。

職業奉仕は、ロータリークラブとクラブ会員の両方の責務である。クラブの役割は、たびたび職業奉仕を実践してみせることによって、また、クラブ自身の行動に職業奉仕を生かすことによって、模範となる実例を示すことによって、さらにクラブ会員が自己の職業上の手腕を開発することによって、目標を实践、奨励することである。クラブ会員の役割は、ロータリーの原則に沿って、自らと自分の職業を律し、併せてクラブが開発したプロジェクトに応えることである。

職業奉仕の実践は、ロータリアン個人ばかりではなく、クラブの責務でもある。各クラブにおいて職業奉仕を実践して見せる教育プログラムを開発し、これにロータリアンは、自らの職業をもって応えることを要求している。

7、国際的レベルでの職業奉仕

ロータリーの第2奉仕部門が、国際レベルで、どの

ように活動しているかを説明しなければ、職業奉仕を完全に説明したことにはなりません。国際的な職業奉仕は、いろいろな方法で行われていますが、それは特に国際ロータリーのロータリー財団の諸活動を通じて行われています。

ロータリー財団は、教育的プログラムとして、21歳から50歳までの男女に毎年50件以上の職業研修奨学金を授与しています。例えば、精糖法を学びたいインドの青年に奨学金を授与して、ホノルル近くの試験場に派遣された。デンマークの楽器製造職人が、財団奨学金を授与され、フランスのメルクマールでヴァイオリン製造技術を学ぶことができました。また開発途上国で奉仕する大学教員のための補助金も支給されている。GSEチーム・メンバーも、海外で研究、見学し、それぞれの職業分野の手法、問題、解決策について意見を交換したりする。

世界社会奉仕プロジェクトは、フィリピンの青少年失業者のためタイのハンセン氏病患者の子供や他の子の職業研修学校などのプロジェクトを、資金を調達して完了したものがあつた。個人レベルで行われている高度の国際奉仕は、ロータリー・ボランティアが実施している。ボランティアは、RIの3Hプログラムを通じて香港、タイ、フィリピンの難民キャンプで、検眼医や歯科医として奉仕するため海外を訪ねている。

8、戦後の日本国は、経済優先主義・金条思想が高揚し、金持ちになること、資産を所有することだけが、日本社会で成功者と評価されたため、その一方で商道徳や企業倫理の低下を招き、個人の精神的な高貴性を尊重する思想が軽視されてきたところに、20世紀末の悲劇があつたといえる。

日本でも、ロータリーが数々の悪弊を21世紀に、どのように補正できるかの真価が問われているといえる、今こそ、これらの問題の実情を深く確認して、ロータリアンが目覚めて日本のロータリーを確立し、定着させる重要なときである。